

【令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果】

中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」の札幌市の概要が新聞等で発表になっています。本校での各教科の概要と課題、改善の方向と学習等の結果を以下に提示いたします。ご家庭での指導等にご活用ください。

なお、本調査で測定できるのは、学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることも同時にお伝えいたします。

	本校の概要	今回の調査における課題
		改善の方向
国語	<p>【知識及び技能】</p> <p>□「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率 ・全国平均とほぼ同程度であるがやや上回っている</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>□「話すこと・聞くこと」の平均正答率 ・全国平均とほぼ同程度であるがやや下回っている</p> <p>□「書くこと」の平均正答率 ・全国平均とほぼ同程度であるがやや下回っている</p> <p>□「読むこと」の平均正答率 ・全国平均とほぼ同程度であるがやや下回っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●文脈に即して漢字を使うこと ●資料や機器を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるように表現の工夫をすること ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること

	本校の概要	今回の調査における課題
		改善の方向
数学	<p>□「数と式」の平均正答率 ・全国平均に比べ、上回っている。</p> <p>□「図形」の平均正答率 ・全国平均に比べ、上回っている。</p> <p>□「関数」の平均正答率 ・全国平均に比べ、ほぼ同程度。</p> <p>□「データの活用」の平均正答率 ・全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●素数の意味の理解 ●統合的、発展的に考え、条件を変えた場面について、証明を評価・改善すること ●一次関数の変化の割合を基に、x の増加量に対する y の増加量を求める ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること ●相対度数の意味の理解 ●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

理科	本校の概要	今回の調査における課題
		改善の方向
	<p>□「エネルギー」を柱とする領域 ・知識については「下回っている」、思考については「ほぼ同程度であるがやや上回っている」</p> <p>□「粒子」を柱とする領域 ・知識については「下回っている」、思考については「上回っている」</p> <p>□「生命」を柱とする領域 ・知識については「上回っている」、思考については「下回っている」</p> <p>□「地球」を柱とする領域 ・知識については未実施、思考については「上回っている」</p>	<p>●「エネルギー」・「粒子」領域の知識問題の正答率が、全国平均に比べ、低い。</p> <p>●「生命」領域のみ思考問題の正答率が低いが、問題を分析すると、他領域の思考問題が既習知識をほぼ必要としない思考問題だったのに対し、生命領域のみ既習知識を活用して思考する問題となっており、知識不足が正答率の低さに結びついていると考えられる。</p>

※本校の概要の見方

□それぞれ領域ごとの本校の平均正答率と全国平均との差を用いて比較しています。

+ 3. 1 ポイント以上	→「上回っている」
+ 3. 0 ポイントの範囲内で全国平均以上	→「ほぼ同程度であるがやや上回っている」
全国平均と同じ	→「ほぼ同程度」
- 3. 0 ポイントの範囲内で全国平均以下	→「ほぼ同程度であるがやや下回っている」
- 3. 1 ポイント以下	→「下回っている」

生活や学習に関する調査について（生徒質問紙調査における全国平均との比較）

※すべての質問において、全国平均と比較して、本校生徒が肯定的（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）な回答をした割合が、高いものと低いものについて、お伝えいたします。

【肯定的な回答の割合が高い項目】

基本的生活習慣等…●朝食を毎日食べていますか

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等…●先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか●人が困っているときは、進んで助けていますか●いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか●学校に行くのは楽しいと思いますか●自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

学習習慣、学習環境等…●分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

地域や社会に関わる活動の状況等…●地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

ICTを活用した学習状況…●あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか●あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか

主体的・対話的で不快学びの視点からの授業改善に関する取組状況…●授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか●先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか●授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳…●総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか●道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

【肯定的な回答の割合が低い項目】

学習習慣、学習環境等…■学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）■学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）■あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般的な雑誌、新聞、教科書は除く）■新聞を読んでいますか

ICTを活用した学習状況…■1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

【生徒質問紙調査の結果から】

家庭学習について、平日の学習時間は全国平均より高い傾向にありますが、その反面、本校の昨年度の生徒と比較すると「30分より少ない時間」や「全くしない」の割合が若干増えています。

昨年度の調査に続き、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的な回答が全国平均より高い傾向が見られます。今後も、教職員と生徒との間における最適なコミュニケーションを重視し、相互の信頼関係の構築に努めるとともに、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに取り組んでまいります。

「自分と異なる意見について考えることは楽しい」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」とする肯定的な回答が昨年度に比較して増加傾向にあります。また、「1、2年次に受講した授業において、PC・タブレット等のICT機器をほぼ毎日使用した」と回答した生徒の割合も、昨年度に比べて増加しています。これらの結果を踏まえ、今後においてもChromebook等のICT機器を積極的に活用し、児童生徒一人ひとりに応じた個別最適な学び及び協働的な学びの一体的な充実を図っていきます。